

東京事務所 〒144-0052 東京都大田区蒲田5-6-7
TEL 03-6424-4020
FAX 03-6424-4021
長崎事務所 〒852-8026 長崎市金堀町30-3
TEL 095-818-1033
FAX 095-808-1036
東海事務所 〒491-0919 愛知県一宮市住吉2-3-14
TEL 050-3623-9750

仙台事務所 〒981-3214 仙台市泉区館2-6-1
TEL 022-343-9984
FAX 022-343-9164
広島事務所 〒732-0014 広島市東区戸坂大上4-23-5
TEL 082-516-6603
FAX 082-516-6604

佐野工場 〒327-0812 栃木県佐野市町谷町303-1
TEL 0283-86-7245
FAX 0283-86-7246
本社/工場 〒818-0046 福岡県筑紫野市山口1929-7
TEL 092-925-9858
FAX 092-925-9857

09 えんたいごう 掩体壕跡地 97式戦闘機

鹿児島県南九州市（旧知覧町）、知覧特攻記念会館から車で5分程でたどり着く、茶畑の中にひっそりとある掩体壕跡地。その場所に突如として現れる97式戦闘機。

全長 7.53m 全幅 11.31m 全高 3.28m実物大の1/1スケール。巨大なプラモデルみたいなものです。制作するにあたり市役所は勿論のこと知覧特攻記念会館、福岡県にある大刀洗平和記念会館の方々から貴重な資料、写真をお借りして忠実に再現させてもらうことになりました。

工場内で構造体となる骨組みを製作、同時に発泡スチロールで各部位の型（尾翼、タイヤカバー、エンジン、プロペラ、ピトー管等）を製作。FRP は 2.1mm程度の厚さで成型しウレタン樹脂塗料にて塗装しました。ダメージ加工のエイジング塗装も検討しましたが、あえてせず製造されたままになりました。製作期間約90日。完成後は工場内でなんと、サンダーで胴体と主翼を切断！！それは現場に搬入する際に主翼がトラックからはみ出す為なんです。運搬はトラック3台で連なり不思議な光景だったと思います。

現場ではクレーンを使い施工し、主翼と胴体を下地鉄骨のフランジ部分をボルト、ナットで繋ぎ、FRP 部分も再度繋ぎ合わせ塗装をしました。主翼は万が一、人が乗っても折れないようにステンレスのパイプで補強をしました。最後にプロペラやアンテナ空中線、ガイシ等細かな部品を取り付け完成となりました。＊飛びません。



発砲スチロールで原型を制作する様子。



現場搬入時の様子。



見せ場のプロペラとエンジン、左翼についているのはピトー管、速度を測る機器です。鉄筋を曲げFRPで巻き上げました。



垂直尾翼には当時の貴重な資料を元に部隊のマークを忠実に再現。アンテナ空中線はステンレスワイヤーとガイシで表現、当時は性能が悪く殆ど役に立たなかったそうです。



掩体壕とは、コの字型に土塁を築き近くに爆弾が投下されても被弾を防ぎ戦闘機を守る施設のこと。

材質＜サイズ：H3280×W11310×L7530＞
本体：鋼材（溶融亜鉛メッキ処理）
ステンレス（磨き仕上）
ガラス繊維強化プラスチック
（ウレタン樹脂塗装仕上）
発注元：南九州市役所
設計・施工：(株)サイト
設置場所：鹿児島県南九州市

サイト担当者
デザイン・設計：奥、浦崎
営業：山本
設計金額（材のみ）
97式戦闘機：¥15,000,000-

10 捕鯨船「第二十五利丸」モニュメント



このモニュメントは、鯨文化の発信を行うために捕鯨船『第二十五利丸』に備え付けられていた捕鯨砲、スクリュー、錨、風向風速計を下関市合併10周年記念事業として展示し、その功績を顕彰するために設置されました。私たちは、より良いモニュメントを作るために捕鯨船解体直後より現地へ行き、プロペラ・碇の実測を行いました。設置した際のプロペラ・碇が良く見える角度を計算し支え金物の高さ・角度を設計しています。

既存のモノを再利用するのは、新設するものよりも精度と技術が必要ですが、その成果もありさらにリアルなモニュメントが出来上がりました。

プロペラ・碇・捕鯨砲はクジラ用と言うこともありとても大きく迫力があります。

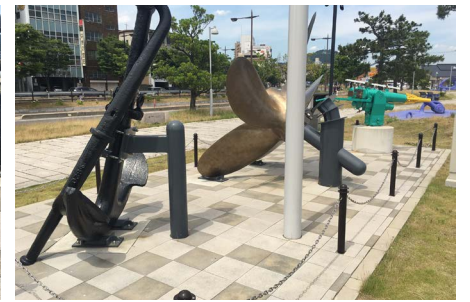
展示されている場所は下関市の観光名所 唐戸市場・海響館 より徒歩にて5分ほどの場所ですので、地元市民の方だけではなく観光に来られる老若男女の方々に捕鯨船の歴史について知ってもらえると幸いです。



サインはモニュメントを壊さないように斜めの形のものを選び、海端ということもありサイン表示面にはSRCメタル印刷を使用し耐候性を高めました。



柵はデザイン性の高いもので空間を引き締めています。



モニュメントを支える金物にもデザイン性を持たせています。

説明板より 抜粋

第二十五利丸は、旧大洋漁業株式会社（現・マルハニチロ株式会社）の捕鯨船として1962（昭和37）年に下関市彦島田の首にあった林兼造船株式会社第三工場で建造され、同年7月19日に進水した下関生まれの船です。

2002（平成14年）9月に捕鯨船としての役割を終え、同年12月に共同船舶株から下関市に寄贈され、2005（平成17）年から下関漁港閘門近くに係留展示し、一般公開を行いました。公開が終了する平成24年度末までに、のべ13,692名の方に来場していただきましたが、建造から50年以上経過し、船体も著しく老朽化してきたため、新たな形で次世代に継承し、鯨文化の発信を行うために第二十五利丸に備え付けられていた、捕鯨砲、スクリュー、錨、風向風速計を、下関市合併10周年記念事業としてここに設置し、その功績を顕彰するものです。

材質＜モニュメント：W8500×D3500＞
本体：錨・プロペラ・捕鯨砲・風向計支給品
支柱：鋼材（溶融亜鉛メッキ処理＋ウレタン樹脂塗装仕上）
＜説明サイン：H1200×W1300×D700 程度＞
本体：白御影石（本磨き仕上）
ステンレス材（ウレタン樹脂塗装仕上）
SRCメタル印刷（1200×900）

発注元：下関市役所水産課
設計事務所：(株)パスコ
設置場所：山口県下関市観音崎町

サイト担当者
デザイン・設計：奥
営業：加藤

設計金額（材のみ）
説明サイン：¥930,000-
デザイン柵：¥566,400-
錨用台座：¥348,000- ※錨支給品
プロペラ用台座：¥739,000- ※プロペラ支給品
捕鯨砲用台座：¥145,000- ※捕鯨砲支給品
風向計用台座：¥388,000- ※風向計支給品

